



宮嶋千秋



きれいに装おわれたからだの中に、普通では人には見せられない、また自分でさえ見ることもできない内臓と骨格を私はかゝえこんでいるわけです。

が見ることのできない内臓はますみにくいものでございましょう。そしてそのきたい内臓ではあつても、なんとなくくらしているこのからだのなかで寸刻のやすみもなく一所懸命に活動しているのです。そしてそれが正常なバランスのとれたはたらきをしてこそ、からだ全体の健康を維持することができます。ほんの一部分でも具合が悪くなるとお医者様のごつかいになり手当を受けなければならぬのです。

これと同じように心のなかにも人に見せられないと、また自分でさえ見ることのできないこゝろの内臓をもつてゐるのです。どちらに皮におよわれた体のなかには、からだの内臓とこゝろの内臓をかゝえこんでいるのでござります。そんなものを持たなければ生きしていくことができないのだと思つております。

この二つの内臓は、ふかい関係があつて、どちらの内臓も健康でなければ人間としてのくらしが具合悪くなつてしまひます。

からだの内臓はともかく、こころの内臓の手当が実は「お聴聞」であると私は思ひます。しかもまた「お聴聞」でこころの内臓を健康にすることは、とりもなをさす体の健康のための最良の手当だと思います。たとえかりに体は病氣であつても、「お聴聞」によりこゝろの健康がたもたれているならば、明るく健康に病氣を病んでいくこともできるよう思います。

みほとけ様のお慈悲が私のこゝろに入りみちてくださつて以上、病いもまた死ぬことさえも何の心配もないようにしてくださると思うのですが、なかなかそのようにはまいります。

こゝろと体の内臓から日々排出されるものは、たいてい汚れた見にくいものが多いように思ひます。少しはきれいで処理ができるよう心がけてはみるのですが、なかなかそのようにはまいります。

ません。

『お正信偈さま』のなかに

まよいの家にかえらんは 疑うつみのあれば

なり。

さとりのくにに生るよは たゞ信心にきわむれり

とあります。

「私はきれいだ」「何も悪いことなんかしてい

ない」と言つたり思つたりして、私のなかに、どうしてもふり切ることのできない汚ない見にく

いものを持ちかゝえていることでござります。

しかし、どんなにきたないつみやとがに満ちた

私の内臓であつても、そのなかにかき分けて入りこんでくださいる如来さまのお慈悲と聴聞し信じさ

せていたぐことで、私は「さとりのくにに生るよは

ことができるのだと『お正信偈さま』はおつしやつているのだと思います。

このような恵まれた健康こそが、ほんとの健康

であると、私はたゞもつたないのこゝろい

っぱいでお念仏を申すばかりでございます。

みにくさを 罪をかき分け入りみちて 摂取不捨とう 弥陀仏あわれ

## 仏婦たより

## 新役員決まる

一月二十六日「勝林寺仏教婦人会」評議員会が開かれた。ほとんど欠席もなく大変盛りあがりのある会でした。住職のご法話について議事に入り例の如く会務報告決算報告につづき今年度の行事や予算について協議しました。最後に役員の改選を行ない次の方々を二ヶ年間の役員として推選しました。(これらはすべて正式に総会で認証されます)

会長	藤川貴恵	(出石)
副会長	湯口千代	(梗見)
	波谷貞子	(唐川)
	藤昌子	(上小田)
会計	亀井幸枝	(出石)

「子ども研修会」第二十回  
「ほとけの子供を育てましよう」という仏婦の掲げるスローガンのもと私たち勝林寺仏婦は昭和四十二年以来「こども研修会」を続けて参りました。今年は第二十回を迎えることになりました。是非記念行事をという声もあり、親子同伴の「ご本山日帰り参拝」を八月十九日(火)に計画実施することになりました。

## ダーナの日

毎年二月の第二日曜(九日)はダーナの日で

す。今年もこの運動に参加したいと思ひます。お寄せいたいた金額は出石組連合仏婦を通じて義援されます。

ダーナについては次のテレホン法話でご理解ください。

1. 豆を一晩重曹水につけて、それをそのまま豆臼沖落させる。
2. 豆をきれいに洗い、洗った豆をまたヒタヒタの水で沸騰させて、さらにもう一度水をかける。
3. 2をまたヒタヒタの水で吹き、オビヤカシ(まし)水を入れながらふくらますまで。
4. 豆がふくらしたら、それから砂糖と塩を入れるのがコツです。

よつぱいに社会のために役に立たしていただきましょうとみんなで申し合せたのがこの「ダーナの運動」です。

「ダーナ」とは古いインドのことばです、「応「布施」と訳していますが「めぐみ」「ほどこし」という意味のとばです。ほとけさまになるためには、私たちおいても贈えなければならない禮が、この「ほどこし」のところだと言っています。

裕美ちゃん 「初参式」おめでとう。

矢根の永井正人・千秋さんの三女 永井裕美ちゃんの初参式が一月五日祖父母(永井貞雄・ひろ子様)同席のもと通り行なわれました。この人間・この家族のなかに生れ出た因縁の不思議さを思ひ、如来さまの恵みのもと大切に育ちますよう共々に誓いました。

裕美ちゃん おめでとう。

昭和四十一年五月、アメリカのニューヨークに集まつた世界各地の仏教婦人の代表たちは、如来さまの貴いお恵みのなかにもつたない生命(いのち)を生きさせていただいている私が、その感謝感謝の思いのなかから、私のかいし

